

5月2日

主教教会博士アタナシオ

Αθανάσιος

(296 頃～373.5.2)

～正統神学の父～

＜人名事典などでの別表記：アタナシオス＞

アタナシオはアレクサンドリアの主教ですが、その生涯をアリウス派との闘争にささげた人物です。

アタナシオはギリシア人の両親のもと、エジプトのアレクサンドリアにある名家に生まれます。そのころのアレクサンドリアは学問の都と呼ばれていましたが、アタナシオも幼い時から勉学に励んでいたと言われています。

さて、彼が生まれた時には迫害されていたキリスト教ですが、313年、ローマ帝国のコンスタンティヌス帝によるミラノ勅令によって、公認されていきます。そして、アタナシオは20歳のときエジプトの隠修士アントニオと出会い、影響を受けます。それから学問を習得しながら、信仰的な修行生活を送っていきます。

さて、迫害が終わったキリスト教にとって、次に待ち受けていたのは異端との戦いでした。その頃、「キリストは被造物である」とするアリウス派がキリスト教を分裂させようとしていました。アタナシオはアレクサンドリアの主教アレクサンドロスを助け、アリウス派と論戦を展開していきます。

その状況を見ていた教皇は、325年ニカイアで公会議を開くこと



「大アタナシオスの
イコン」

を決めます。会議の場でアタナシオはアリウス派を論破し、ニカイア信条の基礎をつくりあげていきます。その神学の中心は受肉論（ロゴス・キリスト論）と三位一体論で、キリストは父なる神と同実体であり、真の神であるというものです。

328年からアタナシオはアレクサンドリアの主教となります。しかしアリウス派の4人の皇帝によって、46年間の主教在職中にローマとトリエルに2回、エジプトの砂漠に3回の合計5回、通算で17年もの間、追放され、また逃亡を余儀なくされます。しかし4世紀の教会史において、アタナシオはほぼ独力で教会を異端的な流れから救った人物であると言えるでしょう。その著書には「異教徒反駁論」、「受肉論」、「弁論」、また「アリウス派論駁」、さらにエジプトの隠修士「聖アントニオス伝」などがあります。

＜特禱＞

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士アタナシオの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン